

平成 29 年度に係る部局評価

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 文学研究科・文学部 | 21. 微生物病研究所 |
| 2. 人間科学研究科・人間科学部 | 22. 産業科学研究所 |
| 3. 外国語学部 | 23. 蛋白質研究所 |
| 4. 法学研究科・法学部 | 24. 社会経済研究所 |
| 5. 経済学研究科・経済学部 | 25. 接合科学研究所 |
| 6. 理学研究科・理学部 | 26. 低温センター |
| 7. 医学系研究科・医学部（医学科） | 27. 超高压電子顕微鏡センター |
| 8. 医学系研究科・医学部（保健学科） | 28. ラジオアイソトープ総合センター |
| 9. 医学部附属病院 | 29. 環境安全研究管理センター |
| 10. 歯学研究科・歯学部 | 30. 国際教育交流センター |
| 11. 歯学部附属病院 | 31. 生物工学国際交流センター |
| 12. 薬学研究科・薬学部 | 32. 太陽エネルギー化学研究センター |
| 13. 工学研究科・工学部 | 33. 国際医工情報センター |
| 14. 基礎工学研究科・基礎工学部 | 34. 数理・データ科学教育研究センター |
| 15. 言語文化研究科 | 35. 日本語日本文化教育センター |
| 16. 国際公共政策研究科 | 36. ナノサイエンスデザイン教育研究センター |
| 17. 情報科学研究科 | 37. 知的財産センター |
| 18. 生命機能研究科 | 38. 核物理研究センター |
| 19. 高等司法研究科 | 39. サイバーメディアセンター |
| 20. 連合小児発達学研究科 | 40. レーザー科学研究所 |

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:文学部・文学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		国際シンポジウムの開催等を通じて国際共同研究の件数が増加し、研究成果をグローバルに発信する取組の成果として、学部生と大学院生による外国語論文数が伸びている点が評価できる。またErasmus Mundus Joint Master Degreeの採択も認められる。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		文化動態論を含めた大学院プログラムの改革の検討を進め、また言語文化研究科及び人間科学研究科と協働体制を採り、人文系教育研究の将来構想を報告書として纏めたことが評価できる。 また、大学院定員充足のための広報を戦略的に実施するなどにより、資料請求が19件から49件に増加したことも評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)について、指導教員を通じた定期的な外国語力の把握と認定試験や資格取得の奨励に取り組み、実績を向上させたことが評価できる。 また、常勤教員一人あたりの論文数では、「文学研究科国際的社会連携型人文学研究教育クラスター」の成果により、実績を向上させたことが評価できる。</p>
--

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:人間科学部・人間科学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		博士課程リーディングプログラムの成果を継承する取組を進めたこと、「知のキュレーター」育成に向けた卓越大学院プログラムの申請準備を進め、大阪大学共創機構の推進する共創知教育として認められたこと等が評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		産学連携研究の推進に向けた取組の成果として企業等からの受託研究受入金額が顕著に増加したこと、また前年度知的財産として承認された防災見守りに関する「未来共生災害救援マップ」を活用し、企業連携組織と災害時協力に関する協定を締結したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		未来共創センターが中心となり、大阪府茨木市との協定及び一般財団法人全国自治会活動支援ネットなど(5件)とオムニサイト協定を結ぶなど、大学と社会の「結節点」の構築を行った点が評価できる。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		部局内の経費および総長裁量経費により、留学に向けた経済的支援を行い、留学する学生数が大幅に増やし、大学院生では前年度比4倍以上に上昇させていることが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)について、英語力向上セミナー「TOEIC対策講座」を実施するなど、学部生の語学力向上に意欲的に取り組むことで、実績を向上させたことが評価できる。

また、日本人学生に占める留学経験者の割合(大学院)では、短期の海外研究交流支援事業を実施するなど、留学経験者数の増加に意欲的に取り組むことで、実績を向上させたことが高く評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 外国語学部

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		マルチリンガルエキスパート養成プログラムにおいて、他の文系学部を提供する学部プログラムとして「英語・英米文化学」とショートプログラムである「スペイン語・スペイン文化学」を開設し、履修生を募集しており、専門的な知識を備えたグローバルに活躍できる人材育成に取り組んでいることが認められる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合及び日本人学生に占める留学経験者の割合について、数値目標を達成し、かつ高い水準に達しており、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名：法学部・法学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		平成29年度から早期卒業制度を実施し、説明会や面談などを通して制度利用希望者への支援を進めたことで、2年次に進級してからも16名が早期卒業候補者とされており、一定の成果が認められる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		全国レベルのCALEコンソーシアムの設立に際し、設立及び参加呼びかけ校に名を連ね理事となり、優秀なアジア各国の留学生受入、アジア圏での知的交流ネットワークの実質化の道を開いた点が評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)について、意欲的に取り組むことで目標数値を達成し、実績を向上させたことが評価できる。

また、外国籍教員の割合について、積極的に外国籍教員を雇用することで、実績を大きく向上させたことが評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 経済学部・経済学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		授業の実質化を図る取組、またウルキディ・湯川記念奨学金を創設して学修・研究活動を支援する取組等を行ったことが評価できる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		クロス・アポイントメント制度を利用し、女性教員を新規雇用することを決定した点が評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 共同研究・受託研究の受入について、積極的に取り組むことで、実績を大きく向上させたことが評価できる。 常勤教員一人あたりの科学研究費補助金獲得件数については、前年度実績と同じではあるが、良好な実績を維持できていることが認められる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:理学部・理学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		平成31年度から開始予定の共通教育カリキュラム改革、特に理系専門基礎教育科目の刷新に、責任部局として積極的に寄与しており、これまでの「理学部コア科目」を総括し、新しい「専門基礎教育科目」の見直しを行ったことが特に評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		平成29年4月1日付で理学研究科初の共同研究講座である「質量分析オープンイノベーション共同研究講座」(日本電子(株))を設置しており、また平成30年3月1日付で、様々な分野の複数の研究者と様々な分野の複数の企業が集うことでイノベーションを起こすことを目指す「質量分析オープンイノベーション協働ユニット」を立ち上げていることが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

新たなダブル・ディグリー・プログラム協定を締結したこと、これまでにダブル・ディグリー・プログラム協定を締結した協定校より学生の受入れを行っていること、締結数が非常に多く大学実績に大きく寄与している点が高く評価できる。

また、研究科独自の予算でTOEIC受験料の一部補助を行っており、学部生18件、大学院生85件(延べ人数)の支援を行っていることが高く評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部・医学系研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に対する達成状況評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		国内外の共同研究を多数遂行するとともに、共同研究講座の設置数が平成28年度の15講座から19講座へ4講座増加し、成果を上げていることが評価できる。 また、臨床データ、疾患感受性遺伝子情報、基礎研究データの超ビッグデータを統合し活用するためのゲノム解析拠点として、医学部附属病院が全国11拠点のがんゲノム医療中核拠点病院の一つに選ばれたことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		産官学が一堂にコミュニティーを果たせる拠点形成を目指した産学連携・クロスイノベーションイニシアティブにおいて、新たに9件(合計26件)健康・医療分野に参入を目指す企業等と包括連携協定を締結していることが評価される。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【財務】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

新規でダブル・ディグリー・プログラム協定を締結した点や、留学のための基金をアピールするなど学生支援に取り組むことで学部学生の派遣留学生を増やしている点が評価できる。
また、常勤教員一人あたりの論文数について、高い水準を維持しており大学実績に大きく寄与していることが認められる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部(保健学科)・医学系研究科(保健学専攻)

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		社会人対象の講座・セミナーを30回以上開催し、延べ参加者は1000名を超えている。さらに、200名以上の参加者の市民公開講座、研究会及び講演会などが4件あることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		保健師教育課程・助産師教育課程の大学院への課程変更の承認を文部科学省より得て、保健学専攻の大学院博士前期課程の定員を16名増員していることが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント(評定に至った理由)】</p> <p>公開講座等を積極的に開催することで、実績を大きく伸ばしていることは評価できる。 また、常勤教員に占める女性教員の割合について、全学的に見ても高い水準であるとともに、さらに増加させていることは評価できる。</p>
--

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部附属病院

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		全研修医を対象として教員によるメンター制度を導入するなど、研修医教育の質向上のための取組を実施しており、計画以上の成果を残していることが評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		がんゲノム医療中核拠点病院の11拠点の1つとして指定されたこと、支援シーズの1つが企業治験を経て薬事承認に至るという特記すべき成果が出たこと、大阪臨床研究ネットワーク(OCR-net)を構築し、15病院(計約8,400床)をセキュアなネットワークで結び、臨床研究データを効率的に収集できるシステムを構築したこと、新規e-learningの利用件数は院内4,122件、院外273件となっており、広く使用されたこと等が評価できる。
【診療】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		国立大学附属病院医療安全・質向上のための相互チェック(重点項目:画像診断レポート等の確認)及び特定機能病院間相互のピアレビューの調査項目策定、集計、評価を実施したことが評価できる。 また、集中治療部の運用病床数を平成28年度の20床から26床に拡大したことにより、管理料算定金額は1,600万円増収となったことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		当初の予定を上回る学内プロジェクト5件、学外プロジェクト6件を支援していることが評価できる。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		インセンティブ制度導入後の期間で前年度と比較し、稼働率2.8%向上、請求額は平成28年度373.5億円から平成29年度386.3億円の増収したことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント(評定に至った理由)】
 常勤教員一人あたりの論文数は低下したものの、実績向上のため教員基礎データへの登録を促す取組を意欲的に行っていることが認められる。
 臨床研究等ICT基盤構築研究事業により、競争的資金(科研費以外)の採択金額を大きく増加させていることが評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名：歯学部・歯学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		事務部内に産学連携強化チームを構成し、教職協働により共同研究講座等の設置を働きかけ、平成30年度に2講座を新規設置する準備を整えたことが評価できる。また、産学共創の推進強化を図るため、平成30年度4月1日付でイノベティブデンティストリー戦略室(専任教授1名、専任講師1名を配置)を研究科内に設置する準備を整えたことも評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		経済的に修学が困難な学生を支援するため、平成27年度に学部学生を対象とする「大阪大学歯学部同窓会奨学金」を新設し、平成29年度は同窓会会員より2,400万円の寄附を集め、これまでに計6名(平成28年度2名、平成29年度4名)に「年間60万円/人」を支援していることが評価できる。

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 教職員・大学院生を対象に行っている対応可能言語調査など外国語能力の把握に取り組み、外国語力の基準を満たす学生数の増加に努めたことが認められる。 また、常勤教員公募に占める国際公募の割合について、100%を達成していることが評価できる。</p>
--

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 歯学部附属病院

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		歯病対企業という組織間の共同研究契約を初めて締結し、研究成果として口腔粘膜疾患診断など3分野の AIを構築し、国内会議(第36回日本口腔腫瘍学会・学術大会 優秀演題賞受賞を含む4件)で発表したり、プレスリリース等を行って社会から大きな反響を得るなど、初年度より順調に成果が得られていることが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		診療時間の延長により、毎週約140名、年間約6,500名の患者が来院し、地域病院・医療施設との連携を推進したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		外国人アドバイザーボード(米国人、トルコ人、オランダ人)を新規に設置し、外国人患者の視点から意見を聴取し、院内表示やアメニティ等の課題に改善を図ったことが評価できる。また、多言語(日・英・韓・中)対応アプリのコンテンツのアップデートを実施し、新たに17の症例を追加、外国人患者に対する診療支援体制をさらに充実させたことが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 科研費に応募した教員の名簿を作成し、各教室等の長に報告するなど、科研費応募件数増加のための取組に努めていることが認められる。 また、常勤教員公募に占める国際公募の割合、常勤教員基礎データ入力率の向上に意欲的に取り組み、100%を達成している点が評価できる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:薬学部・薬学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		大阪府立大学獣医学専攻と連携した研究組織を新たに構築し、アカデミア創業のための基盤技術開発の共同研究を開始していることが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		文部科学省特別経費「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」(高度先導的薬剤師養成プログラム)事業を、大阪大学を主幹校として、国公立17大学の連携によって実施し、大阪大学及び参画国公立大学における学部生、大学院生の海外でのプログラムを開発し、実施したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 大学院入試において英語能力(TOEIC等外部検定試験)評価を導入したことや英語授業科目を増やすことで、外国語力基準を満たす学生数(大学院)の割合増加に意欲的に取り組み、飛躍的に実績を向上させていることは高く評価できる。 また、常勤教員公募に占める国際公募の割合について、100%を達成していることが評価できる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:工学部・工学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>高大連携に関するプログラムについて、部局独自のプログラムを含めて計5プログラムを実施・参画し、延べ76研究室の教員が各種プログラムを提供・担当し、延べ124校・384人の高校生に対して大学レベルの教育研究に触れる機会を提供したことが高く評価できる。また、学業や研究、進路などについて悩んでいる学生をサポートするため、「レジリエンス・サポートルーム(学生支援室)」を開設し、延べ280人以上の学部学生・大学院学生が利用するとともに、当該学生に対して必要なレジリエンスの向上を図るため、ヨガ教室及びコミュニケーションスキルUP講座等を実施したことが評価できる。</p>
【研究】	A	<p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p>
【社会貢献】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>大阪大学教員から初の企業へのクロスアポイントメント1件、企業から大阪大学教員へのクロスアポイントメント2件(内、女性2件)を実施し、人材の好循環を推進し、人事・給与制度の柔軟化に取り組んだことが評価できる。</p>
【グローバル化】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>平成31年度から電気電子情報工学専攻に新たな英語コース「グローバルサイエンス&エンジニアリングコース」を開設することを決定し、学生募集を開始したことが評価できる。また、計9大学・12部局との間において、10種類のダブル(トリプル)・ディグリー・プログラムを運営していることが評価できる。</p>
【業務運営】	A	<p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p>
【広報】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>平成29年度から新たにSNSによる広報活動を開始し、Facebook、Twitter、Instagramを立ち上げている。工学部・工学研究科の日常を取り上げ、受験生に工学部・工学研究科を身近に感じてもらうための工夫を行っていることが評価できる。</p>
【キャンパス環境】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>本部(施設部)での検討に先駆けて、インフラ長寿命化計画策定のため基礎調査を実施したこと、部局独自の予算により補助制度を設け、省エネに資する設備更新を実施するとともに、その効果を試算したことが評価できる。</p>
【情報ネットワーク環境】	A	<p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p>

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 ダブル・ディグリー・プログラム協定、クロス・アポイントメント協定ともに新規で締結したことや、締結数が非常に多く大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。 また、6週間の海外(モナシュ大学)英語研修プログラムを組み込んだ授業科目「理工系英語基礎海外演習」を国際交流科目として開設するなど、外国語力の基準を満たす学生数の増加に取り組み、実績を向上させていることが高く評価できる。</p>
--

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:基礎工学部・基礎工学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。 論文数が全体として前年度に比べ21%増加していること、特にスピントロニクス学術連携研究教育センターにおいて、ネットワーク型の研究を推進することで34%増加させていることが評価できる。 また、附属産学連携センターの設置をはじめとする産学連携に係る取組により、産学連携共同研究数を27%増加させていることが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。 SEEDSプログラムにおいて講義2件、体感科学研究10テーマを担当し、プログラム応募数、受入数ともに昨年度を上回っている。特に応募数の増加が著しいことが評価できる。 また、SEEDS指導教員と高校生との共同の研究成果が米科学誌に掲載され、このことが朝日新聞に取り上げられたことも評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。 研究企画推進室と広報企画推進室が連携し「大阪大学豊中地区研究交流会」(H30/1/10、参加者241名)、および5つの共同研究講座による「豊中地区研究成果発表会」(H30/3/30)を企画・実施したことが評価できる。
【広報】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。 クロス・アポイントメント制度による女性教授受入れ数が、前年度0名から3名へと増加している。また、大学説明会における女子高校生への対応の強化、理系女子学生のキャリアパスを考える企画の開催や、「大阪大学豊中地区研究交流会」(H30/1/10、参加者241名)、および5つの共同研究講座による「豊中地区研究成果発表会」(H30/3/30)を企画・実施したことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 海外派遣中の活動の単位認定を拡大させ、学生の留学に対するモチベーションを高めるなど、留学経験者の割合増加に意欲的に取り組み、実績を向上させていることが高く評価できる。 また、附属産学連携センターを発足させ、従来の研究者個人ベースの共同研究のみならず、企業との連携によって共同研究講座を同センター内に誘致したことで、共同研究の受入金額実績を大きく向上させていることが高く評価できる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 言語文化研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		共通に実施する言語教育に関連する教育プログラムを企画、運営及び実施するとともに、言語教育の質の向上及び社会に求められる人材を育成する機能の強化を図ることを目的としたマルチリンガル教育センターの設置を決定したことが評価できる。 また、マルチリンガル・エキスパート養成プログラムにおいて、新たに英語英米文化学プログラムを開始し、またスペイン語スペイン文化学プログラムおよび大学院プログラム開設準備を整えるなど、同プログラムをさらに充実させたことも評価できる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		「マルチリンガル教育センター」の設置に向け、平成31年度概算要求プロジェクト案「「キャンパスライフ一貫型」言語教育によるグローバルプレゼンスの確立」を策定し、アウトバウンド/インバウンドの留学生数を増加させるための具体案を提示したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		新箕面キャンパスの教育研究棟3・4階について、ダイキン工業株式会社との共創協力関係を前提として、スマートキャンパスの具体的なあり方について構想を取りまとめたことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

外国大学との国際共同学位プログラム数について、マヒドン大学(タイ)教養学部との交渉を意欲的に行い、締結に至ったことが高く評価できる。

また、クロス・アポイントメント実施件数については、女性教員の割合や外国籍教員の割合を意識した積極的な取組により、実績を大きく向上させたことが評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 国際公共政策研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	B	平成29年度計画の達成状況が不十分である。
		計画にあった寄附講座はやむを得ない事由で設置に至らなかったが、「社会ソリューションイニシアティブ」設立に向けた取組は認められる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 外国人留学生比率について、前年度実績から向上させ、かつ高い水準に達しており、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。
 また、常勤教員一人あたりの科学研究費補助金獲得件数については、前年度実績から低下しているものの、高い水準を維持していることが認められる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:情報科学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>博士課程教育リーディングプログラム「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」では、独創力を備えグローバルに活躍するリーダー人材の育成を行い、本年度初めての修了生となる第1期生16名を輩出し(うち、13名が学位取得、13名中1名は短期修了)、修了の最終審査において、研究科を跨ぐ審査委員(指導教員、異なる研究科の教員、学外担当の委員)が参加の上、公開で研究発表会を行っていること、国内外の大学などアカデミアへ8名、ベンチャー企業、コンサルティング会社などを含む企業へ8名が就職し、多様なキャリアパスを取る修了生を輩出したことが評価できる。</p>
【研究】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>重点プロジェクト研究費が平成28年度から58%増加(6.69億円)したことが評価できる。また、ダイキン工業との間で推進している情報科学分野を中心とした包括連携において、共同研究・委受託研究(7件、11名)およびAI人材養成プログラム(2件、2名)などの実施に貢献したことが評価できる。</p>
【社会貢献】	A	<p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p> <p>IT連携フォーラムOACISを通じた産学連携による社会貢献活動を推進し、シンポジウムやICT産学連携フェア、技術座談会を開催している。また、パナソニック株式会社との協働により人工知能共同講座を実施し、10名の受講者に対して、e-learning教材を用いた10日の学習と3回の出張講義を行っている。また、NEDOのAI特別講座「AIデータフロンティアコース」では、3講義を開催し、20名の科目等履修生を受け入れたことが評価できる。</p>
【グローバル化】	A	<p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p>
【業務運営】	A	<p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p>

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

新規で国際共同学位プログラム等の締結をしている点が高く評価できる。
また、大学院生に対してTOEIC,TOEIC/SW受験料の支援を行うなど、外国語力の基準を満たす学生数の増加に意欲的に取り組み、実績を向上させている点が評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 生命機能研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。 順調に計画を達成していることが認められる。 また、海外からの留学生の入学試験において、オンラインを用いた面接試験を行うなど、海外からの学生にとって受験しやすい環境を作ることで、留学生受入の拡大を図っていることが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

外国人留学生比率は、全学でも高い水準で維持していること、さらに実績を向上させている点が評価できる。また、外国人講師による英語の基礎コミュニケーション力やディスカッション力やプレゼンテーションスキルのコツを掴むための講義を開講し、英語の実践力向上に取り組むなど、外国語力の基準を満たす学生数の増加に努めていることが認められる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 高等司法研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	B	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラムにおいて「パブリック法曹プログラム」が3年連続で優れた取組として評価されたことが評価できる。 また、法学部で導入された早期卒業制度についての学修支援や、公共部門でのインターンシップおよび女性法曹の増加に向けた取組は評価できるものの、司法試験短答式試験に特化したe-learningシステム開発に係る計画が達成できていないことが認められる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 常勤教員一人あたりの論文数について、高い水準を維持しており、大学実績に貢献していることが認められる。
 評価区分2評定はBではあるが、専門職大学院という組織の特性上、実績を向上させることが困難な指標が多いことは理解している。

平成29年度実績に係る 部局評価書

部局名: 連合小児発達学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。 (子どもみんなプロジェクト)では10大学16連携教育委員会に拡大し、学校風土、いじめ等、子どものこころの発達に関連する予備調査を10,000人を超える規模で行ったことが評価できる。 また、大脳疾患に対する高度な専門医療を実践するとともに、新薬の開発を含めた臨床研究を目的として、さらに新しい寄附講座「行動神経学・神経精神医学」を設立したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。 西宮市が受託研究機関として加わり、平成30年度からは堺市で自閉症児における超早期療育が開始する(事業費増額見込み)など、自治体との協働体制が強化されたこと、GazeFinderについて池田市、西宮市をはじめ、3府県7自治体で社会実装を行ったこと、「子どものこころと脳発達学」に関して、教育現場と連携した企画を多数行ったことが評価できる。 また、革新的イノベーション創出プログラム(COI stream)で開発中である、双方向性型睡眠教育アプリは学内トライアルを終了し、その有効性についてプレスリリースを行い、NHKや読売新聞等にて大きく取り上げられており、優れた成果が認められる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。 学内でもトップクラスの女性教員比率が維持されており、新しく設置した寄附講座でも常勤教員4名中女性を3名採択していることが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 連合5大学での共同研究成果を広く社会に公開することで、共同研究の受入件数の増加に繋げていることが評価できる。 また、連合5大学間で培われた教員間のつながりを生かし、初のクロス・アポイントメント協定を締結したことが評価できる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:微生物病研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		免疫学・微生物学分野での論文数が平成28年度より増加し、IF10以上の論文割合が増加していることや、新たに日本医療研究開発機構(AMED)の「老化メカニズムの解明・制御プロジェクト」(平成29年度～平成33年度)が採択されるなど優れた成果をあげている。また、マリアワクチン開発につながる研究成果がNatureに掲載され、世界的に注目されていることが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		新たに学術振興会事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」に採択され、高校生対象プログラムを行ったことなど、新たな方法で研究成果の発信に努めたことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		独自に外国人PI育成制度を導入していることや、海外の複数の大学と学術交流協定を締結し、研究者交流、シンポジウムの開催を行っていることが評価できる。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		新たにAMEDのプロジェクトが採択されたことにより、受入金額が昨年度と比較して約55%増加したこと、余剰スペースを民間研究機関等に貸し出すことで約4900万円の収入を得たことなど、研究所として共通の目的として取り組むことで、安定的な自己収入の確保につなげていることが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 常勤教員一人あたりの論文数について、目標を達成し、かつ高い水準を維持していることが評価できる。また、競争的資金(科研費以外)の採択金額については、研究所内執行部が積極的な応募を奨励したことや大型プロジェクト獲得に意欲的に取り組んだことで、実績を大きく向上させたことが高く評価できる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:産業科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育プログラム(社会人教育プログラム)への協力、産学連携や起業のノウハウを学ぶ学際融合科目「産業科学特論」の開講、独自予算を多く用いて博士後期課程学生31名への経済的支援100%を達成したことが評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		グローバル展開推進のための国際共同研究を8件採択している。また、海外機関とのネットワークの強化を図り、グローニンゲン大学と連携オフィス構想等について協議を開始したり、米国パデュー大学やimecと人的交流や共同研究を実施していることが評価できる。
【産学連携】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		企業リサーチパークにおける産学連携を中心とした産学連携活動により、産学連携共同研究134件(うち5,000万円を超える受託研究件数4件)を実施したことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		グローニンゲン大学とともに2大学4研究所による「データサイエンスを活用したマテリアルサイエンス研究」に関する共同研究を開始するとともに、産研内にグローニンゲン大学大阪大学オフィスの設置を完了したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		企業リサーチパークのスペース利用率を88%まで向上させたこと、産学連携活動によって外部獲得資金総額を維持していること、産研からのプレスリリースをEurekaAlertとAlphaGalerioへも積極的に配信した結果、海外報道件数は平成28年度29件に対して、平成29年度は153件と、5.3倍になったことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

共同研究・受託研究の受入について、金額は相手先の事情などもあり低下しているものの、件数については、意欲的に取り組むことで実績を向上させたことが評価できる。
また、常勤教員公募に占める国際公募の割合、常勤教員基礎データ入力率の向上に取り組み、100%を達成している点が評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:蛋白質研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		高度副プログラム「蛋白質先端研究プログラム」を新たに開講し、その授業の一部を英語化するとともに、海外の著名な研究者が短期で滞在する枠組みを導入し、4名の特任教授(常勤)を雇用したことが評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		科学研究費助成事業について新規学問領域や若手研究者層での新規採択が増加したこと、新しい構造生命科学のための研究体制を充実させたこと、蛋白質構造データベースのデータ登録数が29%増となったことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

教員人事によって研究体制を整えるなど、論文数の増加に努めることで実績を向上させたことが評価できる。また、競争的資金(科研費以外)の採択金額について、国立研究開発法人日本医療研究開発機構が進めるプロジェクトの実施主体となることで、実績を大きく向上させたことが高く評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:社会経済研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		所員一人当たり(専任助教以上)のSSCIに収録されている国際学術誌への論文掲載数1.78本(過去5年間平均値)、所員一人当たり(専任教員)の被引用数157件(総数1,884件)など、継続的に優れた研究を産出していることが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		一般市民向けに研究成果を新聞、雑誌、テレビ等を通じて発信(掲載出演等56件)したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		国際学術誌を発行するとともに、外国人教員を計4名雇用したことや、国際共同研究を35件実施するなど、質の高い研究成果に結びつけるための環境整備を行っていることが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
共同研究・受託研究の受入件数について、新規受入により実績を上げたことが評価できる。
また、研究所内の重要事項として積極的に外国籍教員を雇用することで、外国籍教員の割合を大きく向上させたことについても評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:接合科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		6大学6研究所共催による国際会議を開催し、18か国から456名の参加を得たこと、上海交通大学にJWRIオフィスの新設したこと、拠点内に設けた国際共同研究員制度(JIJReC)等を活用して国内外研究所間の連携強化と人材育成・人材交流に取り組み、国際共著論文比率が昨年度の22.9%から35.8%へと増加したことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		ハノイ工科大学のJWRIオフィスに常勤職員を置き、ASEAN地域のハブとして、国際共同研究を推進したことや、国際ジョイントラボを4か所設け、拠点を形成していることが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 常勤教員一人あたりの論文数について、目標を達成し高い水準を維持していることが評価できるとともに、全教員を挙げて国際共著論文の掲載に注力し、本学のグローバル戦略にも寄与していることが認められる。 また、公開講座等の実施については、新たに「接合科学カフェ」を実施するなど意欲的に取り組むことで、実績を向上させたことが評価できる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:低温センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		助教2名で活動する中で、目標値を上回る5編の論文を発表し、そのうち1件は日本鉄鋼協会澤村論文賞を受賞したことが評価できる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		平成27年度末に更新された豊中のヘリウム液化装置で2割～3割使用電力量が減少していることから、大学全体としての節電に貢献したこと、吹田分室のヘリウム液化・回収システムについて、平成28年度国立大学法人先端研究等施設整備費補助金での予算が認められ、更新工事を経て平成29年度末に稼働させたことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

科研費応募件数について、積極的な応募に努めていることが認められる。
また、共同研究・受託研究の受入、公開講座等の実施について、これまでにない実績を上げたことが高く評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 超高压電子顕微鏡センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		「超顕微科学研究拠点事業」において、4件の共同研究を実施し、異分野融合・新分野創成を目指した研究活動を進めている。また、物質・材料科学研究ではナノ構造・形態を制御・創製したり、医学・生物学研究において、タンパク質を立体観察する手法の開発を行ったりするなど、基盤的研究に成果を上げ、論文発表(材料科学19編など)を行ったことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		「ナノテクノロジープラットフォーム事業」等により、合計133件の利用課題を実施するなど、学内共同教育研究施設の枠を超えた研究支援活動を行っている。また、ダイキン協働研究所と「電子顕微鏡を用いた金属の解析」について取り組み、産業界の技術課題の解決に貢献する産学共創イノベーションに貢献していることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 常勤教員一人あたりの論文数について、高い水準であるとともに前年度実績から向上させたことが評価できる。 また、共同研究・受託研究の受入件数について、前年度実績から向上させたことが評価できる。</p>
--

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:ラジオアイソトープ総合センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	B	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		原子力規制庁の事業として「健全な放射線防護実現のためのアイソトープ総合センターをベースとした放射線教育と安全管理ネットワーク」が採択され、21国立大学と連携して実施していることが評価できる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		全学の放射線施設を一元化する全学組織としての「放射線科学基盤機構」の設置準備に協力したことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 競争的資金(科研費以外)の採択について、意欲的に取り組むことで、これまでなかった実績を上げたことが評価できる。 評価区分2評定はBではあるが、組織の特性上、実績を向上させることが困難な指標が多いことは理解している。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 環境安全研究管理センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。 薬品管理支援システム(OCCS)への登録実施状況について、市販薬品情報、学内保管薬品登録数を増やし、より円滑なリスク管理体制とするなどの改善を行ったことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

常勤教員一人あたりの論文数について、意欲的に取り組むことで目標値を大きく上回る実績を上げていることが評価できる。
また、公開講座の実施について、これまでなかった実績を上げたことが評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 国際教育交流センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		関西の企業と連携し、元留学生社会人を対象としたビジネスコミュニケーションのためのケース学習を計12回開催し、元留学生に対する支援を実施していることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		現役の留学生及び企業・行政・大学関係者(計延べ65名)の交流会を規模を拡大して実施し、留学生と社会との接続を支援する活動が評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 科学研究費補助金獲得金額について、実績を大きく上げていることが評価できる。 常勤教員に占める女性教員の割合については、前年度実績から低下したものの、全学的に見ても高い水準を維持していることが認められる。</p>
--

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 生物工学国際交流センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		大学院生を海外フィールドスタディ(S)「生物資源と環境」で25名短期派遣したり、海外から37名の短期留学を受け入れるプログラムを実施したことが評価できる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		海外の研究機関・研究者等との共同利用・共同研究を10件(一人当たり1.6件)実施したことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		マヒドン大とのジョイント・ディグリー・プログラムの構築に向けた協議に参加したり、バンドン工科大におけるジョイントキャンパス設置に向けた調整を行って調印まで行うなど、全学の方針として進めているASEANキャンパスの実現に尽力したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 科研費応募件数について、センター長が研究者と個別面談を実施し、積極的な応募を促していることが評価できる。 また、クロス・アポイントメントの実施については、卒業生との繋がりを活用し、積極的に取り組むことで実績を上げたことが高く評価できる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名：太陽エネルギー化学研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		多くの外部資金を獲得してプロジェクト研究を遂行し、太陽光により水と窒素ガスからアンモニアを合成する世界最高効率の光触媒を開発するなどの成果を挙げたこと、また太陽光エネルギー利用に関する科学技術と社会技術の推進に向け、他機関と連携して太陽エネルギー利用科学協議会を設立したことが高く評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		パナソニック株式会社協働研究所との連携等により、複数の共同研究および受託研究を行い、次世代二次電池や電子移動触媒に関する成果を挙げたことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		シンガポール・南洋理工大学ならびに韓国・プサン国利大学との新たな共同研究を開始して、短期留学生の受入れ／送り出しを行ったこと、また太陽エネルギー利用材料に関する日韓の国際シンポジウムを主催したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
 常勤教員一人あたりの科学研究費補助金応募件数について、意欲的に取り組んでいることが評価できる。
 また、常勤教員一人あたりの科学研究費補助金獲得件数・金額について、前年度実績から低下したものの、獲得のための積極的な応募が一定の成果に結び付いていることが認められる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名：国際医工情報センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		平成28年度から提供している医療デバイスデザインコースに加えて、新たな社会人育成講座である「再生医療：細胞製造設計エキスパート育成講座」において、社会人40名の育成を行ったことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		前年度に開設の医療デバイスデザインコースとともに、平成29年度に提供を開始した再生医療：細胞製造設計エキスパート養成講座の受講料を合わせると、1,610万円の収入を得られたことが評価できる。

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

常勤教員一人あたりの共同研究・受託研究の受入件数について、目標数値は未達成であるものの、大型案件に注力した意欲的な取組が認められる。一方、受入金額については、大型案件を獲得したことにより、実績を大きく向上させたことが評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 数理・データ科学教育研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		学部教育を担う2つのユニットを新設し、ユニット教員が中心となって、ソフトウェア講習会・セミナー・異分野連携ワークショップを開催するなど、数理・データ科学教育の本格化に向けた取組を行ったことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		産学連携教員の新規雇用および学部ユニットの新設に伴い学内外に向けたワークショップの開催件数が増加したこと、また大阪府・大阪市とデータ活用で連携を開始したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		平成29年度概算要求共通政策課題分「数理・データ科学の教育拠点形成」が採択されたことに加え、産学連携を積極的に進めることで、企業との共同研究が2件増加し、競争的資金獲得件数が6件増えたことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

常勤教員一人あたりの科学研究費補助金応募件数について、前年度実績から低下しているものの積極的な応募が認められる。

また、常勤教員一人あたりの競争的資金(科研費以外)及び常勤教員一人あたりの共同研究・受託研究について、意欲的に取り組むことで実績を上げたことが評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名：日本語日本文化教育センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		短期留学生日本語日本文化特別プログラムの定員を60名から80名に拡大させたり、ルーブリックの導入により、学生が到達目標・到達度がわかるようになるなどの改善を行っている。こうした取組により、大学全体の留学生の受入れの拡大に寄与していることが評価できる。 さらに、日本語等の予備教育を実施した留学生に対して、追跡調査を実施し、カリキュラム改善の検討に活かしていることが評価できる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		教育関係共同利用拠点として、他大学の留学生の受入れや、日本語教育を専攻する学部生・大学院生の教育実習の機会を提供しており、7大学から延べ85名の実習生を受け入れたことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		325名の留学生を受け入れるとともに、他の学部や大学院に所属する多くの学生にも授業を提供して全学の留学生教育に貢献していることが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

所属教員向けに科研費についての説明会を開催し、科研費助成事業についての最新の情報を提供することで科研費応募件数の増加に取り組み、実績を向上させていることが評価できる。
また、公開講座等の実施についても実績を上げるなど積極的な取組が評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名：ナノサイエンスデザイン教育研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>文部科学省の職業実践力養成プログラムの認定を受け、厚生労働省の専門実践教育訓練講座の指定による受講企業すべて(4社9名)が厚生労働省助成金の受給資格を得たことが評価できる。</p> <p>また、博士後期課程に一般学生向け14単位の副専攻プログラム、社会人博士ナノ理工学特別コースに8単位の高度副プログラムを設置し、合計6プログラムとしたこと、また社会人教育のコースを充実させ、土曜講座への参加者が前年比で増加したこと、遠隔配信数もこれまでの最大16カ所で行ったことが評価できる。</p>
【研究】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>産学コンソーシアム参加企業数を増やし研究交流を進めたこと、また住友電工アドバンスト解析技術共同研究部門が5月1日から3か年計画で設置され(平成32年度末迄)、計算物質科学についての研究と人材育成に関して企業との連携が開始されたことが評価できる。</p>
【社会貢献】	A	<p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p>
【グローバル化】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>日越大学ナノテク専攻への講義提供、国際共同研究促進プログラムへの採択、マレーシア科学大学とのダブルディグリー協定の締結、アセアンキャンパス構想の一つであるベトナム科学技術院のVAST-OU Joint Office開設に参画し、3月に現地でワークショップを実施する等、グローバル化に向けた取組が評価できる。</p>
【業務運営】	S	<p>平成29年度計画の達成状況が優れている。</p> <p>社会人教育受講料の実質値上げを行ったものの前年度を上回る受講生を集めたこと、新設の共同研究部門を含めて共同研究実数および共同研究費総額が増加したことが評価できる。</p>
【広報】	A	<p>平成29年度計画の達成状況が良好である。</p>

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】</p> <p>常勤教員一人あたりの論文数について、成果を確認する一環として常勤教員に対して教育・研究・社会貢献に関する自己計画評価報告書を年度末に提出させるなど、意欲的に取り組むことで実績を向上させたことが評価できる。</p> <p>また、公開講座等の実施件数について、企業の企画運営委員からのテーマや講演者の希望を聴取して毎回企画を行うことで、多数の参加者を集めていることが評価できる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 知的財産センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		学部、大学院の学生に提供する各種講義に加え、企業の実務家による実践的教育、政府機関及び企業の実務家による進路選択等に関する公開講義を実施し、特に後者についての規模の拡大があったことが評価できる。
【研究】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【産学共創・ 社会学共創活動】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		大阪大学、大阪教育大学及び大阪工業大学の三大学において協定を締結し、内閣府知的財産戦略推進事務局が推進している知財教育に関する地域コンソーシアムの構築に貢献したこと、小中高に対する知財教育を始めたこと、特許庁の受託事業において開発した知財教材を特許庁のウェブサイトで公開したこと、研究科や産学共創本部などと共同で知的財産に関する研修を行ったことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 常勤教員一人あたりの論文数について、意欲的な数値目標を設定し達成したことが評価できる。 また、常勤教員基礎データ入力率については、100%を達成していることが評価できる。</p>

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:核物理研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		隕石を破壊せずに元素組成を測定し、世界初のミュオン非破壊元素分析による隕石の分類に成功するなどの研究成果が出ていることが評価できる。 また、JSTの産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラムに採択され、10大学・機関と15企業が参画する組織対組織の大型プロジェクトを開始したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		福島県飯館村で環境放射線を学ぶ研修・教育プログラムについて、飯館村との間で協定を締結し、学生を派遣して放射能汚染の状況の測定や意見交換を行ったことや、これまでの成果により、平成30年度には、全学基礎セミナーとして実施予定であることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		来年度以降に行う加速器の機能強化に向けて、加速器停止期間中における対応策等を他機関と連携して行っていること、クロス・アポイントメントや海外の著名な研究者の受入れを積極的に行ったことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 学術システム研究センター研究員を招待し、科研費の近年の状況変化の説明会を開催するなど、科研費獲得への取組が認められる。 また、競争的資金(科研費以外)の採択件数・金額について、JSTの産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラムのため、取組を統合したことで件数は減少したものの、金額については実績を大きく向上させたことが評価できる。</p>
--

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:サイバーメディアセンター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		情報処理教育のための新たなビデオコンテンツの作成や、出身高校による情報処理教育理解度の差異を解消するための新たな教材の導入などを行った。また、VDI技術を用いた情報教育システムの拡充を行い、ライセンス数を600から820まで拡充し、一般教室での利用が可能な環境の整備を進めたことが評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		データバリティフロンティア機構のサービス創出・支援部門と協力し、センサー環境の設計、構築を行い、その研究成果の一部について報告を行った。また、NEC共同研究部門と応用情報システム研究部門との連携により開発された技術を活用した歯学部附属病院との共同研究を加速させ、その成果が報道にも大きく取り上げられたことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		データセンターの抜本的省エネに関するオープンイノベーション型のコンソーシアムを推進し、エネルギー効率で世界記録を達成したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		スーパーコンピュータOCTOPUSを導入し、当初予定性能1PFlopsを大幅に上回る1.4PFlopsのピーク演算性能を達成したことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

共同研究・受託研究の受入について、共同研究契約を締結はしていないが、共同研究実績が認めれるとともに、企業との協働研究所を設置するなど共同研究の増加に取り組むことで実績を向上させたことが評価できる。
また、外国籍教員の割合については、教員の職階問わず、すべて国際公募を実施することで実績を向上させたことが評価できる。

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:レーザー科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		Creative analytics社のInCitesによる国際連携論文の割合が約60%と高いレベルにあることや、レーザー駆動中性子源開発において、中性子発生数の世界記録を達成し、非破壊検査への応用に向けた研究が開始されたことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		大学間学術協定1件、部局間学術協定を5件締結し、米国、独国、ルーマニア、ベトナムに連携オフィスを設置したこと、積極的に先方スタッフをクロス・アポイントメントで雇用し、連携オフィス運営にあたっていること、ルーマニアとの国際連携が日本-ルーマニア科学技術交流会議で重要な科学技術交流案件として取り上げられたことが評価できる。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		教授会・教授懇談会・ファカルティ会議の運営を見直すことで、時間の短縮や出席率の改善につながり、若手研究者も含めた意見集約や合意形成ができるように改善が図られており、また、外部資金獲得を奨励するための意識改革を行ったことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】
競争的資金(科研費以外)の採択件数・金額について、全研究者が集まるファカルティ会議において、1件/人以上の申請を目標として共有し、実績を大きく向上させたことが評価できる。
また、外国籍教員の採用に積極的に取り組むことで、外国籍教員の割合を向上させたことが評価できる。